



社会教育委員だより No.39

令和7年9月1日 山北町社会教育委員会議
(山北町教育委員会生涯学習課内)

新たなメンバーと新たな研究課題に取り組みます

4月22日(火)に令和7・8年度の社会教育委員に対する委嘱式がありました。昨年度と比べて社会教育委員13名の内10名が入れ替わり、新たなメンバーと新たな調査・研究活動がスタートしました。研究課題は、委員の皆さんからたくさんのご意見をいただき、検討させていただきました。

令和7・8年度の社会教育委員会議では次の課題で研究・調査を進めていきたいと思ひます。



研究課題決めのようす

<研究課題>

地域における社会教育のあり方を考える

～地域全体を学びの場に～

- ① 地域ぐるみで子どもの育成 … 山北町の社会教育活動の見直し、子どもの居場所 等 **地域教育力の再生**
- ② 地域学校協働活動との連携 … 生涯学習支援者バンク、幼稚園・保育園・こども園・小・中学校と地域との関わり 等 **地域で学ぶ、地域を学ぶ**

「地域ぐるみで子どもの育成」

令和2(2020)年に文部科学省が作成した「これからの学校と地域」というリーフレットの中で『地域においても、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等により、地域社会における支え合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。』という記載があります。

山北町でも、これらや少子高齢化・過疎化は大きな課題です。そのような中でも私たちは成長する過程で様々な「ひと・もの・こと」に関わることをとおして、多くの知識や技術を学び、生きる術を身につけていくのではないのでしょうか。

子どもに対する教育活動をしていく中で学校が大きな役割を持っていることに変わりはありませんが、それと同時に私たちが住む地域で、地域の人々から、そして子どもたちから学ぶことも多いと思ひます。変わりゆく時代の中でも地域の活性化を含め、地域で子どもを育てる重要性を改めて考えていきたいと思ひます。



「地域学校協働活動との連携」

地域はこれまでも、学校と連携しながら教育活動に取り組んできました。それぞれの地域に合わせた特徴ある授業が学校で展開され、子どもたちの豊かな学びを支えてきました。山北町では、現在もほとんどが保護者や同窓生、学校支援ボランティア等が中心となって学校の求めに応じて学校教育活動に協力していると思います。



文部科学省が示している「地域学校協働活動」は、学校への「支援」ではなく、地域と学校の「連携・協働」です。学校は子どもに様々な経験をとおして学びを深める機会を設け、地域は、次世代育成やまちづくりに繋げ、地域全体で子どもの成長を支えることを目的に、地域と学校がパートナーシップに基づき、双方向の関係になることをめざす活動を言います。

山北町も、従来の「学校への協力」だけではなく、「*学校運営協議会」と連携し、学校教育・社会教育活動全般に地域が関わる連携体制を整えることが重要になってくるのではないかと考えています。

以上のような課題や現状をしっかりと調査・研究し、より一層山北町の社会教育を発展させるために、研究課題を「地域における社会教育のあり方を考える～地域全体を学びの場に～」と決めさせていただきました。私たち社会教育委員会議がどのような役割、あるいは関わりを持っていくことができるのか、この2年間をとおして調査・研究をしていきたいと思ひます。

今後も町内に在住・在勤・在学の皆様などに調査のご協力をお願いするかもしれませんが、ご理解・ご協力をよろしくお願ひします。

* 学校運営協議会…コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みのこと。

「社会教育」って？

学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主に青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいいます。

このような活動を生涯をとおして行っていくことで、人生が豊かになったり、絶えず新しい知識や技術が習得できたりと人材育成や社会経済の発展に寄与することが期待されます。



乳幼児家庭教育学級の様子

【山北町の社会教育活動(一例)】

各地区での夏祭り、道祖神祭り(どんど焼き)、防災訓練、放課後子ども教室、サマースクール、わくわく自然教室、星座教室、乳幼児家庭教育学級、やまぶき学級、文化財講座、人権講演会、料理教室、カヌー体験教室、スポーツクラブの活動 など

